

# ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(平成30年7月分)

平成30年8月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

## 1. 国内情勢

### (1) 国家レベル

### (2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ スルプスカ共和国(RS)

※ 当該月、ブルチュコ特別区に関する主立ったニュースはなし。

## 2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

(2) 二国間関係

## 3. 経済

(1) 経済政策、公共事業

(2) 経済協力

(3) 民間セクター

(注: 以下は、現地紙など公開情報を取りまとめたものです。)

## 1. 国内情勢

### (1) 国家レベル

#### ● 10月の国政選挙に向けた候補者リストの提出締切り(9日)

9日、中央選挙管理委員会(CEC)は、10月の国政選挙に関し、各党が提出する候補者リストの受付を締め切った。この後、CECはリストの確認を行い、8月23日に最終リストが公開される。

#### ● スレブレニツァ大量虐殺追悼祈念式典の開催(11日)

11日、RSのポトチャリにあるメモリアル・センターにおいて、スレブレニツァ大量虐殺第23周年追悼祈念式典が実施され、イゼトベゴ

ビッチ大統領評議会議長(ボシュニャク系)やギュル・トルコ法相等政治指導者に加え、一般市民約1.5~2万人が参加した。また、新たにDNA鑑定が完了した35名の遺体がポトチャリの共同墓地に埋葬された。

#### ● HDZ以外のクロアチア系政党、選挙選で団結(18日)

18日、HDZ1990やHSP等のHDZ(クロアチア系第一党)以外のクロアチア系政党は「クロアチア系の結束」連合を結成し、10月の国政選挙においてBH大統領評議会クロアチア系メンバー選挙で、HDZ1990のゼレニカ候補を共同で支援することを発表した。

#### ● 「スレブレニツァの母の会」代表が逝去(22

目)

22日、「スレブレニツァの母の会」の代表ハティージャ・メフメトビッチ氏が逝去した。これに対し、世界中から追悼のメッセージが寄せられたが、24日、ラデタ・セルビア議会副議長(セルビア急進党(極右)所属)が、同代表の虐殺された家族や同代表の死を愚弄するような発言をSNSに投稿し、セルビア及びBHの内外から強い非難が起こった。

#### ●BH刑事訴訟法に関する議会審議は9月に実施(27日)

5日、BH議会下院は会合を実施し、同院で4月に採択済みであるSDA(ボシュニャク系第一党)提案のBH刑事訴訟法改正法案に関し、立法手続きが迅速かつ一切の修正を受け付けない緊急審議手続きにおいて上院に審議を求めるとを決定し、上院に送付した。一方、27日、上院は審議手続きを修正が可能な準緊急審議手続きに変更。同法の審議はHDZ(クロアチア系第一党)の対案及びセルビア系議員団による修正案と併せて9月に実施されることになった。

なお同法は、BH憲法裁判所により、検察の捜査方法等に関して違憲判決を受け、改正が急がれているが、SDA案は人権等の国際基準を満たしているが、HDZ案は満たしておらず、国際社会は、国際基準の遵守を求めている。

#### ●継続する移民危機への対応と行政機関同士の対立の悪化

7月も引き続き、BH当局は、増え続ける不法移民・難民の流入問題に苦慮しており、BH内各行政機関同士の軋轢が悪化した。

BH閣僚評議会は、対セルビア及び対モン

テネグロの国境管理と再入国協定による送還の強化を決定。また、欧州委員会からはIPAファンドを通して同問題に対し600万ユーロを割り当てる旨の回答を得たが、新規に設置する移民収容施設の場所に関しては、対EU(クロアチア)国境に近すぎるとしてEUから反対されることとなった。更に、メクティッチBH治安相は、難民・移民が多く滞留するウナ・サナ・カントン当局やビハチ市市長と対応を協議するも合意ができなかった。

26日、首都サラエボにおいて同カントンの市長等が政府の対応不足に抗議するデモを行った他、移民等の自領土への一切の受入れ拒否を表明しているRSは、独自の難民モニタリング組織の設置を決定した。

なお、BH外国人庁の発表によれば、2018年1月から7月末までの不法移民登録数は9,730名。うち60%は既にBHを出国済み。また、約700名がBHにおいて庇護申請を行った。

## (2)エンティティ、特別区

### ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

#### ●モスタル市議会選挙、本年度も見送りの可能性(2日)

2日、チョービッチHDZ党首兼BH大統領評議会メンバー(クロアチア系)は、モスタルにおいて開催された同党幹部会の前に、メディアに対して、政党間の妥協が見込めないためモスタル市選挙は、2018年中には実施されないと発言した。

同市は、クロアチア系とボシュニャク系の対立により選挙区等が合意できず、2008年以来、市議会及び市長選挙が実施されておらず、10月の国政選挙に合わせた実施を目標に、BH主要9政党の地元代表が数か月の間協議

を続けている。

●BH選挙法改正法案問題をめぐる2度のVNIの申立て(19日、26日)

19日、BH連邦議会上院会合では、ボシュニャク系中心の5党のイニシアティブによりBH選挙法問題の解決策として成立が目指されている「BH連邦議会の選挙区及び議員定数法案」の審議が予定されていたが、直前に同院議長(HDZ、クロアチア系)と副議長(SNSD、セルビア系)が共同で、同法案に対する民族の死活的利益(VNI)の侵害を申し立てた。これに反対したボシュニャク系議員は会合をボイコットし、イニシアティブに参加する左派政党所属のセルビア系議員は、他のセルビア系議員に協議無くVNIを申し立てたとして副議長の解任を要求した。これに対し、同解任要求が協議される予定であった26日の会合の日、今度は同議長と副議長が解任要求に対し、共同でVNIを申し立てた。このように、BHでは選挙法改正問題をめぐる混乱が続いている。

イ スルブスカ共和国(RS)

●RS国民議会、青年の不審死を否定しつつも捜査は開始(4日)

4日、RS国民議会は、3月にバニャ・ルーカ市で発生した青年の不審死に関し、主に野党議員で構成される特別調査委員会による、同青年は殺害された可能性が高いと結論付けた報告書を否決した。一方で、同日RSのメディアは、バニャ・ルーカ地方検察庁が「殺人事件」として同事件の調査を開始したと報じた。

●RS政府、NATOに対する反対姿勢を維持(5日)

5日、RS政府は、2017～2019年NATO

国別パートナーシップ行動計画(IPAP)に関する協議を行い、同計画に反対することを決定した。また、4日、同政府はNATO欧州大西洋災害対応調整センター(EADRCC)がセルビアで10月に実施する国際訓練へのRS災害救助庁の参加を決定したものの、BHとしてではなくあくまでRSとして参加するとした。

●バニャ・ルーカ市におけるデモの拡大(7日)

3月末に発生した青年の不審死へのRS当局の不十分な対応に対し、バニャ・ルーカ市において始まったデモは、BH全土への拡大を見せつつ、継続している。7日には、BH全土から約1.2～1.5万人が参加し、今までで最大規模となった。

●スレブレニツァに関するRS政府報告書の撤回を議会に要求(19日)

19日、ドディックRS大統領は、2004年にRS政府が組織した委員会が調査し、ボシュニャク系7,779名の殺害を認めたスレブレニツァに関するRS政府報告書の撤回を求め、RS国民議会に対し同問題に関する会合の開催を要求。23日、RS国民議会は同会合を8月14日に実施することを決定した。

## 2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●中欧・中国首脳会合へのBH代表団の出席(7日)

7日、ブルガリアのソフィアにおいて中欧・中国首脳会合(「16+1」サミット)が実施され、BHからは、ズビズディッチ閣僚評議会議長、

シャロビッチ副首相兼対外貿易経済関係相及びビュースコ運輸・通信相が出席した。会合の機会に、ズビズディッチ議長は、李克強國務院総理との間で会談を行い、二国間経済協力の推進に関して協議を行った。同会談には、シャロビッチ副首相等も同席し、席上、シャロビッチ副首相とHan Changfu貿易地方開発相との間で、BH・中国獣医療及び動物検疫協力協定が署名された。

#### ●西バルカン首脳会合へのBH代表団の出席(9～10日)

9～10日、英国ロンドンにおいて、西バルカン首脳会合が開催され、BHからはズビズディッチ閣僚評議会議長、ツルナダク外相及びメクティッチ治安相が出席した。ズビズディッチ議長は10日の首脳会合において、今次会合は英国がブレクジット後も西バルカン諸国との協力や経済的、社会的及び文化的な結束の強化を継続していくというメッセージが込められていると述べた。

#### ●モスタルにおける平和記念行事(23日)

23日、チプラス・ギリシャ首相、ザエフ・マケドニア首相及びマルコビッチ・モンテネグロ首相は、ズビズディッチBH閣僚評議会議長の招待によりモスタルを訪問し、地元NGOが主催するスタリ・モスト(16世紀に建てられた東西及び民族を分けてネトレバ川にかかる橋で、紛争時に破壊されたが2004年に再建された世界遺産。)の再建14周年記念行事に参加した。また、同記念行事において、チプラス首相とマルコビッチ首相は、モスタル平和憲章に署名を行った。BHは2年前、マケドニアは昨年に署名を行っている。

## (2) 二国間関係

#### ●RSとセルビア、学校カリキュラムの統合に向けた動き(2日)

2日、RSとセルビアの両議会の教育委員会が会合を行い、両学校カリキュラムのうち、民族科目(母語、文学、歴史呼び地理)の調和について合意した。この動きに対し、ボシュニャク系はデイトン合意違反であるとして非難している。

#### ●チョービッチ大統領評議会メンバーのセルビア訪問(19日)

19日、セルビアのベオグラードにおいて、チョービッチBH大統領評議会メンバー(クロアチア系)は、ブチッチ・セルビア大統領と会談し、二国間関係や10月の国政選挙に関して協議を行った。

#### ●サウジアラビア王子のBH訪問(16～19日)

16～19日、スルタン・ビン・サルマン・サウジアラビア王子兼遺産・観光庁長官がBHを訪問し、イゼトベゴビッチBH大統領評議会議長(ボシュニャク系)やズビズディッチ閣僚評議会議長、サラエボ市長(共にボシュニャク系)等と会談し、二国間関係や観光分野等の経済関係の強化につき意見交換を行った。また、同王子は、2000年にサルマン・サウジアラビア国王によりサラエボに開設された、モスクを併設したファハド王文化センターを訪問した他、モスタルの旧市街やスタリ・モスト(世界遺産の橋)等を視察した。

#### ●BH・ギリシャ首脳会談(23日)

23日、モスタルの平和記念行事参加のためBHを訪問中であったチプラス・ギリシャ首相と

ズビズディッチ閣僚評議会議長は二国間会談を行い、二国間関係について協議を行った。チプラス首相は、ギリシャは苦慮していた経済危機を脱しつつあり、今こそ西バルカン地域との関係強化が重要であると述べた。なお、同首相は、ギリシャにおける大規模山火事の発生を受け、滞在予定を短縮して帰国した。

#### ●ツビヤノビッチRS首相の米国訪問(25～29日)

ツビヤノビッチRS首相は、米国ワシントンを訪れ、初日にコンウェイ大統領顧問及びサンダース大統領報道官と会談した。また、27日には、バノン前大統領首席戦略官と、同氏の自宅において会談を行い、RS・米国関係等につき意見交換を行った。

#### ●チョービッチ大統領評議会メンバー、クロアチア大統領と会談(25日)

25日、ザグレブにおいて、チョービッチ大統領評議会メンバー(クロアチア系)が、グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領と会談を行い、BHの欧州大西洋統合プロセスについて説明を行った。また、BH選挙法改正問題は未解決のままだが、BHのクロアチア系は引き続き、憲法上の3構成民族が全ての政府レベルに正当な代表を送れるようになるように働きかけを行っていくと述べた。

#### ●ツルナダク外相、ポンペオ米 국무長官と会談(27日)

27日、米国国務省で開催された宗教的自由の促進に関する外相会議に参加するため米国を訪問したツルナダク外相は、ポンペオ米 국무長官と会談を行い、南東欧地域情勢について意見交換を行った。会談中、ツルナダ

ク外相は、米国はBHの大切なパートナーであり、2つのエンティティと3構成民族からなるBHの国家構成と Dayton 合意に関する米国のサポートはBHの長期的な安定と発展に欠かせないと述べた。

#### ●クロアチア、ペリエシャツ橋の建設を開始(30日)

30日、クロアチアが、同国沿岸地方南部の飛び地を連結するペリエシャツ橋の建設を開始すると、BHでは、これに反対してきたボシュニャク系と賛成のクロアチア系の間で対立が深まった。

同日、建設開始の情報を受け、イゼトベゴビッチ大統領評議会議長(ボシュニャク系)は、BHの関係省庁の反対や、海洋法に関する国際条約を無視した同橋の建設開始は、公海へのアクセスというBHの主権に対する目に余る侵害行為であり、BHは権利保護に訴え出るつもりだと述べた。一方で、31日、HDZ(クロアチア系)は声明を発表し、同橋の建設はBHに大きな利益をもたらすと主張した他、今回の建設開始は欧州委員会が、これまでにボシュニャク系が発出した数々の書簡には、建設を踏みとどまるだけの法的理由がないと判断したからであると指摘した。

### 3. 経済

#### (1) 経済政策、公共事業、

##### ●2019年のBH国家予算は増額方針(3日)

3日、BH財政評議会が会合を実施し、2019年のBH国家予算を7年ぶりに1.68%増額させる内容の、2019～2021年財政バランス及び財政方針に関する包括的枠組みを全会一致で採択した。なお、これまでRSは国家

予算の増額を一切許容しない立場を取っていた。

#### ●2017年の経済動向報告書(18日)

18日、BH閣僚評議会は2017年の経済動向報告書を採択した。同報告書によれば、2016年と比較して、BHの輸出は17.4%、輸入は12.2%増加した。年平均の失業者数は約49万人で、前年より6%減少した。

#### ●BH連邦政府、増税収入配分に関するITA決定の撤回を要求(27日)

10日、間接税庁(ITA)運営委員会は会合を実施し、懸案となっていた高速道路使用料のエンティティ間振り分け率について、RSが主張していた燃料税が増税される前の比率(BH連邦59%、RS39%、ブルチュコ特別区2%)を継続することで合意した。これは、ペバンダBH財務相及びミリチェビッチBH連邦財務相(共にHDZ、クロアチア系)が突然立場を変更したことで合意に至ったもの。この立場の変更はチョービッチHDZ党首とドディックSNSD党首の取引で、選挙法改正問題をめぐりSNSDが民族の死活的利益(VNI)侵害の申立てに協力することの見返りであると見られている。

これに対し、BH連邦政府は27日に会合を行い、10日のITAの決定を拒否し早急に再検討を求める決議、及びBH裁判所にITAの同決定の履行停止を求める提訴を行うことを決定した。

#### ●BH連邦、自動車専用道路建設に1億KMを割当て

30日付当地紙によれば、BH連邦政府は、ラシュバ＝ネビッチ・ポーリエ間の自動車専用道路建設に1億KM(約5,100万ユーロ)を、

モスタル南バイパス道路の建設に700万KM(約360万ユーロ)を割り当てることを決定した。建設費用は、2017年に露との間で行われた債務償還で得た資金を充当する。

#### ●BHの2017年GDP、初の300億KM超

BH統計局の発表によれば、2017年のBHのGDPは、2016年より約3%多く、また初めて300億KMを超えて、約313億KM(約160億ユーロ)となった。なお、一人当たりGDPは、8,941KM(約4,570ユーロ)。

## (2)経済協力

#### ●地域協力評議会、観光分野の改善に160万ユーロを供与

16日、南東欧諸国が参加する地域協力評議会(RCC)は、観光分野の改善に約160万ユーロを供与することを決定した。具体的には、地域の観光に関する文化サービスやインフラの改善を目的とした最大54,000ユーロの30以上のプロジェクトに無償援助するもので、期間は3年間、対象は西バルカン6カ国としている。

#### ●スイス、ゼニツァ市の下水処理場に475万ユーロを供与

31日付当地紙によれば、スイス政府はゼニツァ市の汚水の収集及び処理に関するプロジェクトに475万ユーロを供与することを決定し、ペバンダ副首相兼財務相や駐BHスイス大使等の中で署名式が実施された。なお、スイスは同市において上水施設のプロジェクトも実施中であり、上下水道分野におけるゼニツァ市との長期的な協力、キャパビル、技術導入を狙いとしている。

### (3)民間セクター

#### ●RS、太陽光発電プラント建設の入札を発表

9日付当地紙によれば、RS産業・エネルギー・鉱業省は、リュビニェ市における太陽光発電プラントの建設プロジェクト入札を27日に実施する旨発表した。同プラントは、BH最大の65メガワットの発電量を予定しており、工期は2年間。50年のコンセッション形式となる。同省によれば、既に、オーストリア、中国、トルコの企業が興味を示している由。

#### ●伊の工作機械部品メーカー、BHの工場を拡張

23日付当地紙によれば、イリヤシュ市にある工作機械向けの油圧シリンダーやシートを製造する、伊系メーカー「AMA アドリアティック」社は、来年同市に2500平米の新工場を建設することを発表した。従業員数は現在の150名から50名増員の予定。

同社は、伊だけでも12工場を有し、1,000名以上の従業員を抱える伊AMAグループのグループ会社であり、2008年にBHに進出した。

(了)